



平成26年度 コミュニティ再生ワーキング グループの取り組み

平成26年11月21日

平成26年度からの主な事業

1) 地域コミュニティ再生事業交付金

- ・新しいコミュニティ活性化事業

2) 防犯灯LED化整備事業

- ・自治会防犯灯のLED化・電気代の全額市負担



目的：地域コミュニティが元気になること

会議開催状況（これまで2回開催）

第1回会議 平成26年 8月26日（火）開催

第2回会議 平成26年 9月26日（金）開催

第3回会議 平成27年 2月 開催予定

（予定：コミュニティ活性化事業について）

協議の内容

第1回会議

平成26年 8月26日（火）開催

コミュニティの存在意義を確認する ワークショップ

- 1) 自治会加入率低下の原因に関する分析
- 2) ごみ回収の手法、
ステーション方式のあり方

協議の内容

第2回会議

平成26年 9月26日（金）開催

自治会加入のメリットについて ワークショップ

- ・ 情報伝達、情報収集
- ・ 安全安心、災害時の助け合い
- ・ 地域の絆づくり、相互扶助づくり
- ・ 生活環境づくり

協議の内容

名和田 是彦 教授（法政大学法学部）の講演

- ・ 自らが当事者意識を持って地域づくりを進めていくことが必要
- ・ 「依存」から「共助」への意識転換の必要性
- ・ 全国的に見てみると都市内分権が進み、コミュニティ協議会のような課題解決型の住民組織の結成が急速に進行中

今年度の主な取り組み

コミュニティ活性化事業

1) 花いっぱい運動

2) 防災に関する取り組み

- ・ 防災訓練、防災マップの作成 ほか



地域コミュニティに最も期待される安全安心の確保に
一定の成果

3) 人が集う場を提供し、そこから活性化の切り口を探ろう
というイベント事業



イベントをきっかけにまちづくり

4) まちづくり意見交換会

(愛媛県・市町連携のモデル事業、多喜浜校区)

- ・ 住民が主体的に取り組む地域づくり

地域コミュニティ再生のために

- “人のチカラ” が大事
- 協働のまちづくりを拓げていくには、共に汗を流す、共に話し合うことが何より大事
- 市民と行政が胸襟を開いて未来を語り、実践する



信頼関係が育まれる